

「地域密着型金融推進計画」進捗状況

（平成17年度上半期分）

平成17年8月に公表しました「地域密着型金融推進計画」の
17年4月～9月までの進捗状況をご報告いたします。

事業再生・中小企業金融の円滑化（ ）

・ 取組方針

- (1) 創業・新事業支援等機能の強化
- (2) 取引先企業に対する経営相談・支援機能の強化
- (3) 事業再生に向けた積極的取組み

・ 進捗状況

- (1) 中小企業新事業活動促進法の申請をするお客様に対して支援を行っています。
- (2) 外部機関と連携し、経営情報の提供やビジネスマッチングの場の提供などお取引先の要望に合わせた支援を行っています。

営業店において「一人一社」改善支援先を選定し、経営者の方と共に経営改善計画者の策定に取り組んでいます。
- (3) 取引先旅館の再生支援を行うため、再生支援協議会と共に事業計画の策定に取り組んでいます。また、各セミナーに参加し、再生ノウハウの蓄積を図っています。

事業再生・中小企業金融の円滑化（ ）

・ 取組方針

- (4) 担保・保証に過度に依存しない融資等の推進

- (5) 顧客への説明態勢の整備等、相談苦情処理機能の強化

- (6) 人材の育成

・ 進捗状況

- (4) 原則第三者保証と担保を必要としない融資商品「Aクイック」を発売しました。今後も商品の品揃えを充実させていきます。

- (5) 実務者、役席、店長等の各階層別に説明義務についての研修を行うと共に、営業店における説明態勢の点検、指導を行いました。

- (6) 取引先旅館に当金庫中小企業診断士を出向させ、実務研修を実施しました。また、職員の経営支援能力向上のための各種研修を実施しました。

経営力の強化

・ 取組方針

- (1) リスク管理態勢の充実
- (2) 収益管理態勢の整備と収益力の向上
- (3) ガバナンスの強化
- (4) 法令等遵守態勢の強化
- (5) I Tの戦略的活用
- (6) 信金中央金庫の機能強化

・ 進捗状況

- (1) 金利リスクの自己資本への影響度について試算、検証し、今後の対応を検討しました。
- (2) 債務者の内部格付の整備をすすめ、信用リスクに応じた貸出金利の導入を準備しています。
- (3) 総代会開催前に決算状況等の説明を各種会合を通じ実施しました。
- (4) 法令等遵守に関する各種勉強会、研修会を実施、職員の意識向上を図っています。
- (5) オンラインネットワークを再構築し、制御装置の更改を行いました。また、法人インターネットバンキングの推進をしています。
- (6) 協同組織中央機関である信金中央金庫に当金庫の決算分析を依頼しました。

地域の利用者の利便性向上

・ 取組方針

- (1) 地域貢献等に関する情報開示

- (2) 地域利用者の満足度を重視した金融機関経営の確立

- (3) 地域再生推進のための各種施策と連携等

・ 進捗状況

- (1) 16年度ディスクロージャー誌、ミニ・ディスクロージャー誌にて、当金庫の地域経済活性化への取組みを説明しました。

- (2) お客様に対し満足度アンケートを実施する予定です。

- (3) 地域活性化に向けた各種プロジェクトに参画して、情報提供、提言等を行っております。

数値目標

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none">・ 経営改善支援先のうち48先（全体の26％）を本計画期間中にランクアップさせる。・ 無担保、第三者保証なしの融資商品（Aクイック）を新設し、10億円以上の融資を実行する。 | <ul style="list-style-type: none">・ ランクアップを目標に182先の経営改善支援に取り組んでおります。なお、実績の公表は17年度終了後となります。・ 17年9月末までに4億59百万円の融資を実行しました。 |
|---|--|

「地域密着型金融推進計画」の進捗状況(17年度上期)

項目	実施スケジュール	進捗状況
1. 事業再生・中小企業金融の円滑化		
(1) 創業・新事業支援機能等の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・中小企業診断士を業種別担当者として配置し、そのノウハウを活用して起業、事業展開に資する情報の提供、成長段階に応じた支援をしていく。 ・取引先の中小企業新事業活動促進法申請に対し積極的に支援する。 ・営業店を通じ中小企業者経営革新の必要性を啓蒙していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・融資審査能力の向上、審査態勢の強化のために融資部・経営相談室で業種別担当者を配置した。 ・創業・新事業の情報を業績評価基準に加え、9月末までに営業店等から47件情報を収集した。 ・中小企業新事業活動促進法の「経営革新」が9月末までに2社承認され、現在、33社が申請中で4社に対して取組みを支援している。 ・経営革新の説明会を営業店に対して2回、戸田村商工会で取引先に対して1回実施した。
	<ul style="list-style-type: none"> ・「支援強化ネットワーク」(しずおか産業創造機構)、「しずおかスタートアップ投資組合」等を積極的に活用する。 ・三島商工会議所との連携を強化するため「三島地区中小企業支援連絡会」の開催を継続する。 ・中小企業支援センターへ創業・新事業案件を積極的に持ち込む。 ・静岡県工業技術センター、県内大学、国立沼津高専と連携し、情報交換を行う。 ・しずおかベンチャーサポート(SVS)の活用により取引先の販路拡大を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「支援強化ネットワーク」を活用し、専門家派遣制度を利用、4社を支援した。 ・「しずおかスタートアップ投資組合」は10月に登記の予定で、当金庫は100万円出資することとした。 ・三島商工会議所との「三島地区中小企業支援連絡会」を9月末までに3回開催した。 ・中小企業支援センターへは9月末までに創業案件を1件持込んだ。 ・東海大学開発工学部が主催する「産学官交流フェア」を後援した。静岡県工業技術センター・ファルマバレーセンターの講演会等に参加し、情報交換を行った。 ・しずおかベンチャーサポートに取引先企業4社を紹介、販路開拓支援を行った。 ・経営相談室により、9月末までに市場調査等相談案件に関する支援を7先、創業・新事業支援を23先を行った。
(2) 取引先企業に対する経営相談・支援機能の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・「さんしんチャレンジクラブ」、「しずおかベンチャーサポート」の活用を図りビジネスマッチングやM&Aの成約をめざす。 ・「さんしんニュース」の内容を充実させる。 ・商工団体、信金中金、信金キャピタル、外部専門家等からの情報収集や連携強化を図り、経営相談、地域金融人材育成を支援していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・7月に「さんしんチャレンジクラブ」主催の経営革新セミナーを開催、経営情報の提供を行った。会員14名が参加。 ・「しずおかベンチャーサポート」に取引先4社を紹介、販路開拓の支援を行った。 ・「ビジネスマガジンVEGA」(静岡新聞社発行)に取引先2社を紹介、記事に掲載された。 ・「さんしんニュース」において、中小企業新事業活動促進法の概要説明や「しずおか新産業技術フェア2005」の案内を行い、経営情報やビジネスマッチングの場の提供を行った。また、8月より取引先が関心を持てる地域情報(隠れた名跡)の提供をしている。 ・5月にさんしん同友会原町支部会員(25名)を対象に、サービス業(旅館業)の集客策について経営相談室の中小企業診断士が講演を行った。 ・8月に三島工業団地協同組合の会員を対象に、金融取引を巡る環境変化について経営相談室長が講演を行った。 ・三島商工会議所と「三島地区中小企業支援連絡会」を発足、定期的に会合を設け、情報交換をしている。 ・9月に三島商工会議所主催、信金中央金庫担当者を講師として「PFI」の研修会を実施した。 ・しずおか産業創造機構と締結した「支援強化ネットワーク」を活用、専門家派遣制度により取引先に専門的アドバイスを実施した。また東海大学開発工学部主催の「産学官交流フェア」を当金庫が後援し、同大学との連携強化を図った。 ・しずおか産業創造機構主催の「しずおか新産業技術フェア2005」を取引先に紹介、2社が視察した。

項目	実施スケジュール	進捗状況
(2)取引先企業に対する経営相談・支援機能の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・要注意先債権等のうち、原則として与信残高が2億円以上かつ経営者の改善意欲が高いと判断される先を63先抽出して経営改善に取り組む。 ・営業店は、融資・営業役席および担当者が一人一社の改善支援先を選定し、経営改善計画書の策定を支援する。 ・「延滞・赤字・書換先等債務者」についての金庫内ヒアリングを5月と11月に実施し、取引先の実態把握と経営支援策を検討、指示する。 ・中小企業再生サポートシステム(CSS)を活用し営業店に経営診断書を配布、取引先への経営改善支援をサポートする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経営相談室の担当として経営支援先63先を選定し、改善指導している。改善計画書の策定からモニタリングまで営業店とともに取組んでいる。 ・営業店においては「一人一社」改善支援先を選定し、経営者とともに経営改善計画書の策定に取組み始めている。9月には経営相談室職員による臨店を実施し、進捗状況の確認を行った。 ・「延滞・赤字・書換先等債務者」についてのヒアリングを5月に実施した。取引先の赤字の原因・対応策・今後の取組方針等を聴取し、実態把握と改善支援の指示を行った。 ・中小企業再生サポートシステム(CSS)研修会を実施し、周知徹底をはかった。営業店からの依頼により、経営診断書を作成し取引先の現状分析や経営改善支援のサポートを行っている。
(3)事業再生に向けた積極的取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・早期事業再生手法のノウハウを蓄積し、対象取組み先を選定し再生を実践する。 ・中小企業再生支援ファンドを活用する。 ・実現可能性の高い経営改善計画に基づきDDS(債務の資本的劣後ローン化)を活用する。 ・静岡県中小企業再生支援協議会と連携し、取引先の再生計画案の策定を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・信金中金による再生ファンドの勉強会や再生支援協議会・静岡キャピタル主催のセミナー等に参加し、再生ノウハウの蓄積を図った。 ・スポンサーの確保ができた旅館の再生支援を行うため、再生支援協議会とともに事業計画の策定に取組んでいる。 ・再生支援協議会に一般案件を1先提出したが、財務内容に問題なしとのことで結果的に否決となった。 ・静岡キャピタルにファンド案件として2先提出した。1先は対応が難しいが、もう1先については継続審議することになり現状も取組んでいる。
(4)担保・保証に過度に依存しない融資の推進等		
担保・保証に過度に依存しない融資の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・信用リスク計量化システムを本格稼働させ、精度を検証する。 ・スコアリングモデルを基本とした無担保・第三者保証のない商品の第一弾を開発する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・限定根保証契約を変更し、保証協会保証付と保証のないものに分けて、保証人が保証している債務を明確にした。 ・17年8月よりCRDのスコアリングモデルを利用して、原則第三者保証と担保を必要としない商品「Aクイック」を発売し、17年9月末までに459百万円を融資した。 ・信用リスク計量化システムの検証のため、17年3月末及び6月末で計量化を行い、自己査定結果との類似性が問題のない範囲であることを確認した。
中小企業の資金調達手法の多様化等	<ul style="list-style-type: none"> ・格付システムのCRDスコアリングモデルと自己査定の債務者区分を活用し、優良取引先を対象とした融資商品を開発する。 ・TKCローンのPR活動と取扱いを拡大する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・17年8月に「CRDスコアリングモデル 評点2」、自己査定の債務者区分を利用して、新商品「Aクイック」を発売した。 ・TKCの静岡県東部地区役員と折衝する中で、新型ローンの素案を作成した。
(5)顧客への説明態勢の整備、相談苦情処理機能の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・17年度4月より施行された「与信取引に関する顧客への説明態勢に係る事務取扱要領」に基づき職員指導を実施する。 ・営業店臨店により説明態勢の強化のための指導を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4月融資役席研修会、5月融資実務者研修会、7月部室店課長合同研修会等を各階層別に開催した。 ・5月に「与信取引に関する顧客への説明態勢」にかかる制定書類を改正しより明確化を行った。 ・営業店臨店を実施し、重点的に点検と指導を行った。

項目	実施スケジュール	進捗状況
(6)人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・企業評価能力の向上を目的に当地優良旅館に中小企業診断士資格を有する職員を出向させる。 ・業界が主催する「目利き能力養成講座」「企業再生講座」に職員を派遣する。 ・全店融資役席を対象に「企業再生支援」研修を実施する。 ・融資・営業役席および担当者が一人一社を選定して経営改善支援に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取引先旅館に、当金庫中小企業診断士を4月1日から出向させ実務研修を実施させた。 ・業界主催の「目利き力要請ステップアップ講座」「企業再生支援実践講座」「企業再生支援講座」に職員を派遣した。 ・「中小企業再生支援研修会」(9/16)を開催。未来事業(株)経営プロデューサーを講師に、全店融資役席、融資部、営業推進部、経営相談室職員、合計51名が参加した。 ・6月より融資役席・担当者及び営業役席・担当者が一人一社を選定し、経営改善支援に取り組んでいる。
2. 経営力の強化		
(1)リスク管理態勢の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・新BIS規制対応の作業部会を設置し、規制導入時の管理手法を決定するとともに、具体的算出方法を検討する。 ・金利リスクの自己資本への影響度を検証する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・17年9月に新BIS規制作業部会を発足させ、具体的検討に入った。 ・ALM委員会において、17年3月末における金利リスクの自己資本への影響度を試算し、検討した。
(2)収益管理態勢の整備と収益力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・信用リスク計量化システムの精度を検証する。 ・個人信用格付の取扱量を拡大する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・6月末の信用リスク計量化資料を基に、ALM委員会で基準金利の素案が検討され、さらに8月の同委員会で基準金利をベースとした標準金利表作成(案)について検討が行った。 ・9月のALM委員会と総合リスク管理委員会で、プライシング事務取扱要領(案)を検討した。 ・9月末の法人信用格付先は約1200件にて、概ね計画通りに進行している。
(3)ガバナンスの強化	<ul style="list-style-type: none"> ・主要会員取引先に対して決算説明および意見吸収を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・17年6月の総代会開催前に役員により、会合などを通じて主要取引先に対して決算状況等の説明を行った。(対象745名) ・7月発行のディスクロージャー誌に総代会制度についての事項を掲載した。
(4)法令等遵守(コンプライアンス)態勢の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス担当者・オフィサー研修会を実施し、不祥事件・事故等の発生あるいは発生の恐れがある事象について報告する。 ・外部講師による、役員、部室店課長勉強会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・6月コンプライアンス担当者・オフィサー研修会を実施。内容について全店で8月までに全員にフィードバックされた。 ・「コンプライアンス・プログラム」について、第1・2四半期終了後に各部署の進捗状況を検証、フォローした。 ・7月9日外部講師による、本年度第1回目の役員及び部室店課長69名の参加を得、研修会を実施した。 ・17年度上期コンプライアンス委員会を7回実施し、コンプライアンス事象、苦情事象を主体に改善策及び再発防止策を検討、各部署にフィードバックした。
(5)ITの戦略的活用	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインネットワークの再構築、オンライン制御装置の更改をする。 ・法人向けインターネットバンキングを推進する。 ・顧客統合基盤システムを研究する。 ・信用リスク計量化システムのテストランおよび検証作業を実施する。 ・基準金利表を試行作成し、プライシングの基本事項を確認、整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインネットワークを再構築し、制御装置(コミュニケーションサーバ)の更改を行った。 ・法人インターネットバンキングの推進を行った。(82先新規契約) ・顧客統合基盤システムを研究し、導入の仮申込みを行った。 ・信用リスク計量化システムのテストランおよび検証を行った。 ・基準金利表を試行作成し、要領の制定に取り掛かった。
(6)協同組織中央機関の機能強化	<ul style="list-style-type: none"> ・信金中央金庫が提供する期間限定の特別定期預金を取組む。 ・信金中央金庫による当金庫16年度決算分析の報告を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別定期預金(満期H17.11.2)を取組んだ。 ・信金中央金庫による当金庫16年度決算分析の報告を17年8月開催のALM委員会において実施した。

項目	実施スケジュール	進捗状況
3. 地域の利用者の利便性向上		
(1) 地域貢献等に関する情報開示	<ul style="list-style-type: none"> ・16年度ディスクロージャー誌、ミニ・ディスクロージャー誌にて地域貢献等の情報を開示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・17年8月に16年度ディスクロージャー誌およびミニ・ディスクロージャー誌を発行し、当金庫の地域経済活性化への取り組みなどを開示した。
(3) 地域の利用者の満足度を重視した金融機関経営の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・ディスクロージャー誌を利用して、読者に対しての当金庫満足度調査を実施する。 ・当局から要請された「利用者満足度調査」を実施し、その結果を経営方針に反映させる。 ・同友会員に対し地域貢献状況等についての情報を開示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ディスクロージャー誌を利用して、読者に対しての当金庫満足度のアンケートを実施した。 ・「利用者満足度アンケート調査」の12月実施に向けて準備中
(4) 地域再生推進のための各種施策との連携等	<ul style="list-style-type: none"> ・各自治体、観光協会等の「伊豆ブランド創生事業」の計画立案の際し検討会に参加し現状把握、課題抽出、解決策等を提言する。 ・「かかりつけ湯」のモデル施設に対し、先進地域の事例紹介などの情報を提供する。 ・商工会議所の会員や市役所職員に対し信金中金総合研究所の職員を講師にPFIの勉強会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「伊豆ブランド創生事業」の計画立案に際し、土肥温泉旅館組合が進める「恋人の里」事業に関する検討委員会に4回出席し、現状把握、課題抽出、提言を行っている。 ・7月開催の、「かかりつけ湯」モデル施設協議会の設立総会に出席して事業計画に関する詳細情報の収集を行い、取引旅館に事業内容の情報提供を行った。 ・9月16日に、信金中央金庫担当者を講師として「PFI」の研修会を三島商工会議所の会員に実施した。 ・下記、会合・研修に参加し地域活性化の方向性を探っている。 <ul style="list-style-type: none"> 7月より伊豆地域活性化を進める「地域活性化スクランブルフォーラム」(地域振興の方向性を考える任意団体)の会員となり、講演会やパネルディスカッションの手伝いを行った(県議員、国会議員2名もメンバー)。 7月より経済産業省が進める「地域内連携によるコンテンツ制作環境整備モデル事業」、映像コンテンツ(映画・CM・TV他)を活用した地域振興を行うモデル事業に認定された「『伊豆ロケーションビューロー』創生プロジェクト事業」への後援企業として参加、事業協力を行う。 7月より観光まちづくりの人材育成のため静岡県の観光交流室が主催する「地域観光カリスマ育成講座」に職員を参加させ知識の習得に努めさせている。